

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094400019		
法人名	株式会社パラディ		
事業所名	グループホーム長寿の里なかばる		
所在地	糟屋郡粕屋町大字仲原1163-1		
自己評価作成日	平成24年02月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の家事手伝いへの参加および個人活動支援の実施 ・地域活動参加への実施 ・ノロウイルスやインフルエンザ等の感染予防の為、施設内の清潔保持、また外部からの入室に対する感染予防の徹底

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>20年8月に開設された“グループホームなかばる”では、「明るく、優しく、笑顔で、共に想い、支えあいます」という理念のもと、ご本人と家族の思いを折々に伺えるように、職員全員で“寄り添うケア”に取り組んでこられた。ホームから聞こえてくる笑い声も増えており、ご本人が話しやすい環境が作られている。週1回は全員参加の食事作りも楽しまれており、お好み焼きやいなり寿司などが作られている。ホームの代表は電気店を営み、佐賀県を拠点に介護事業を展開されているが、代表自らが泥付きの新鮮な野菜等を届けて下さっており、運営推進会議で提案頂いた粕屋町の生産物(ブロッコリー等)も食材に使い、愛情いっぱいのおいしいお料理が作られている。お部屋の入り口には職員手作りの小さな着物が下げられ、より温もりのあるホームになってきている。両ユニット合同で食事をしたり、一緒に外出する機会も増やし、お互いの職員が交流できる機会が作られており、今後は、ご利用者と一緒に、敷地内の畑で野菜の水やりや収穫を楽しみたいと計画中である。24年3月には前管理者が復職され、更なるチームワークが作られていく予定である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも感謝の気持ちを胸に～ご入居者様へ、スタッフ間においても 持ち続けたい心です	1つのユニットでは終末期ケアが行われた。スタッフ一人ひとりひとりのケアに、家族から「幸せな時間の提供に感謝してます」と温かい言葉を頂いた。また、職員が食器片付け中に、「私も手伝おうか?」とご利用者から言ってもらい、一緒に洗い物や洗濯物たたみをしており、お互いに「ありがとう」と言う言葉が増えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事案内をいただき 参加できています。 その都度の交流を 大事にしています。	23年春から“子供110番”を始められ、地域の方からも「安心」の声を頂いている。草取りや美化活動等の町内会活動も一緒に行い、地域の方とも顔馴染みになってきている。敬老会、地域の夏祭りにも出かけ、ご利用者も楽しむ事ができた。地域の子供達が行うハロウィン仮装行列の慰問場所としてホームを提供している。	代表は、ホームでの祭りを予定して駐車場を広くしており、ライトも設置されている。地域への感謝をこめて、“長寿の里なかばる 祭り”の実現に向けた取り組みを行っていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪の際には 認知症に関して 施設生活についてなど お答えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議は 頻繁であると ご家族・地域の皆様のご意見、新しい発言は なかなか生まれにくい状況でした。	23年度から2か月に1回開催しており、ご利用者も参加している。参加者からの希望もあり、認知症の病気の勉強も行われ、参加者からも「参考になりました」と言う言葉を頂いた。粕屋町の特産物も教えて頂き、日々の食材に使用しており、地域の方や町役場の方からも情報を頂いている。	会議後に アンケートの配布を検討しており、会議の場で伝えられなかった意見や、伝え忘れた事を記入頂ければと考えている。家族から「土日の方が参加しやすい」という声も頂いており、今後も検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思うことは 役場に赴いた際に 尋ねています。 町職員の方も 時間のゆるす限り 対応いただいています。	運営推進会議以外にも、申請時等に町役場を訪問した時等にホームの報告を行っている。地域密着型になった時に、粕屋町から最初に指定を頂いたホームでもあり、情報交換をしながら運営を行ってきた。入居に関する相談時も、熱心に相談に乗って下さり、適宜アドバイスを頂いており、粕屋町ネットワークの研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉上では 理解しているが 安全を確保することが 優先し ご本人のしたいことを 阻止している場合もあるように感じます。	委員会活動の中でも「待つて」を含む言葉での「スピーチログ」も含めて、職員の意識の向上に努めている。玄関の施錠に関しては役場からの指導でもあり、折にふれて役場にアプローチしている状況である。閉塞感による心理的影響がないように、“外に出たい”という思いを察して、職員と一緒に外に出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ほどには 身近に思えてないようで 清潔保持をしない、見守りをしない、声掛けを怠るなどが 虐待に繋がるという意識が 薄いようなので 指導しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる方には ご説明し援助しています。職員間での 勉強会を 今後は 設けたいと思います。	数名の方に成年後見制度についての説明を行っており、入居前から成年後見制度を利用されている方が2名おられる。制度に関するパンフレット等の準備を行い、他のご利用者や家族への説明と共に、職員への研修なども行っていく予定にしている。	ご利用者等が必要時に制度の活用ができるよう、パンフレットをお渡しし、制度に関する説明もしていく予定にしている。制度に関する知識を、職員が学べる機会も作っていきたく考えている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって契約内容を 確認していただき 契約・解約に臨んでいます。 質疑応答・要望の傾聴など 納得と安心に至るまで時間を費やしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置、生の声を 傾聴できる形をとっています。 外部相談窓口の告知も行っています。	運営推進会議や他の行事の時と同じ日に家族会を開催し、家族同士の会話も弾んでいる。家族の面会も多く、職員と一緒に世間話もできており、来訪時に頂いた意見は会議で話し合い、対策を返答している。会議の場では「職員の名前と顔が一致しない」という意見も頂いており、現在検討中である。	新しいご利用者も増えており、“新しい家族の方も遠慮があるのでは”と考えられている。日頃の面会時に、職員から家族に笑顔で話していく機会を更に増やし、“真の想い”を聴いていく予定にしている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議にて意見・提案を受けています。また随時、いろいろな アイデアなど 聞く体制はとっています。	23年2月に役職等の変更や業務改革が行われ、24年3月には人事異動と共に新人職員も増える予定である。ホーム会議時には、各議題に対して意見や提案する時間を設けており、職員の発言も多く、要望等を運営に活かせるようにしている。物品購入等は社長や事務の方に稟議書を挙げて検討して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年の夏より 賞与が スタート、3周年を迎えてスタッフの向上心が 高まりました。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	仕事への 熱意と 思いやり・優しさを 重視しています。 職員の 地域行事参加、個人啓発のための研修など 勤務の調整を行っています。	職員の年齢も幅が広く、男女両方の職員が勤務している。採用時はやる気や明るさ、優しさを大切にしており、職員が得意とする畑仕事、料理やレク、手芸が得意な方やボイラーの修理など個々の力を發揮して頂いている。ユニット間の交流のために行事を一緒にしたり、資格取得のための勤務調整も行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	虐待防止の勉強とともに ひとりの大切さを考える機会を持っています。	運営者(責任者・管理者)は職員との個人面談もしており、年長者であるご利用者の人権を尊重し、長年、社会貢献して来られたご利用者に“感謝・労い”をする事や、ご利用者が要望を言ってくれる場を大切にしていこうと伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議の際、現場ケアの必要時、外部研修などを利用して介護力向上を進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会 における研修会に参加、介護支援専門員の研修にも参加。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	起床時から就寝、睡眠まで 今までの生活を大事にして 本人様の 声に 耳を傾けています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から 入居に至るまで 納得と安心を大切に 進めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族の希望の おりあい を しながら 安心していただけるスタートの形にしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おばあちゃんの知恵～と 言いますか、家事や料理の際に 若いスタッフの知識不足を 助けていただいています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や その他の行事への参加の際に、余興から 料理まで 活躍していただいています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週火曜日を外出の日とし 希望される散歩や外出を支援しています。 ご家族・ご友人の来訪も 歓迎しています。	夏祭りでは、昔からの馴染みの方と懐かしい話して花が咲き、笑顔も満開になられた。入院中に「子供の頃から生活した懐かしい場所に行きたい」と希望があり、担当医とも相談し 退院の際に希望の場所を ゆっくりとドライブしてホームに戻られた。「墓参りに行きたい」とのことで、家族の協力で実現する事ができた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	興奮の多い方は まわりが 避けるようになり興奮への ケアを 重ねていったところ、利用者間の 談笑する姿がみられるようになりました。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去のみの現状です。 法要・初盆には思い出の ものをお届けしています。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折々に ご本人様の 歴史を うかがい そこから思い出の物・場所、好きなものを 把握するように つとめています。	ご本人が話しやすい環境を作り、希望などを話して頂くようにしている。担当者の方を中心にアセスメントをしており、希望等も記入している。入浴時や夜勤の時に「家に帰りたい」と言う思いを話して頂くように傾聴しており、喜怒哀楽を含めて大切にお話を聞くようにしており、ケアチェック表に記録している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様と ご家族様から 情報をいただき安心して生活できる支援に取り組んでいます。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の 好まれる 過ごし方を 尊重し できること、したいことを 把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に 生活の希望を 聞き取り 情報の収集に努め 実現へ向けての介護計画をつ っています。	多くの情報を把握している職員にも、アセスメント用紙(ケアチェック表)を記入してもらっている。ご利用者、家族、主治医にも意見を伺い、ケアマネを中心に計画を作成しており、洗濯物干しや買い物等も計画に盛り込まれている。体操、レク等のリハビリの視点も持ち、“ご利用者自身の計画”という視点を大切にされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン項目から エピソードを 中心に 記録しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当スタッフが まわりからの情報を整理し ご本人様の希望の生活が できるように支援 しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老会等参加出来そうなイベント は、入居者様に伝え参加希望があれば、積極 的に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様と ご家族様が 希望される かかり つけ医を選び 適切な医療提供に努めてい ます。	ご利用者の情報を かかりつけ医に伝える際は文書報告 にしている。職員や家族が通院介助しており、受診結果 は共有できている。各主治医と急変時の連絡方法を決め ているが、急変時には協力医と24時間連絡を取り合い、 指示を仰いでいる。協力医は毎日往診に来て下っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者様に関する情報で 医療判断が必要 なことは 主治医・担当医への 橋渡しを看 護師は行い 適切な受診・治療につながっ ています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医・ナース・リハビリ担当者 と 安心・安全・早期退院を 相談し 情報交換 を行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域協力を得て 夏祭りは 酸素ボンベ持参 で参加できた ご入居者様もありました。 ご家族様と地域の皆様 そして主治医の協 力のなかで 話し合いは できています。	ご本人の自己決定を大切に、主治医、家族との話し合い を重ねている。ご本人と家族の希望を傾聴し、具体的な 話し合いに努めている。23年度も5名の方の終末期ケア が行われ、最後は医師の指示で病院に搬送された。ホーム で対応できる状況まで、ぎりぎりまで精神誠意対応させ て頂いた。終末期ケア(エンゼルケア等)の研修も行われてい る。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変を 予想できる ご入居者様が 数名あり ましたので 折にふれ		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協力のもと 公民館へ避難する行程と なっています。 日常から地域との交流を 深め 災害時協力のスムーズな動きに 繋げ たいと考えます。 年2回の防災訓練を 重 視し実施。	年2回、ご利用者と一緒に緊急連絡網の確認を行い、消火器を使用して、夜間想定での訓練も行われた。24年3月には消防署の方にも参加頂く予定であり、運営推進会議においては、地域の防災訓練への参加を区長にお願いしている。災害に備えて、缶詰や懐中電灯も準備しており、他の物も購入予定である。	西小学校で行われる地域の消火訓練にも職員が参加予定であり、24年3月には消防署の方にも参加頂く予定にしている。その後の6か月後には地域の方にも参加して頂きたいと考えており、より地域との協力体制を強くしていく取り組みを続けていく予定である。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年齢や 聞かれたくないだろう事は 触れない。 禁止はしない。	ご利用者へ言葉かけをする時は敬語を使用し、禁止用語を使わないようにしている。不在時は、入室する旨を伝えて居室に入るようにしている。付添いを嫌がられる時は無理強いせず、距離を置きながら見守りをするなど、介助時にご本人の意向を優先するようにしている。情報の管理も徹底されている。	食後のトイレや洗面が重なる時に、職員の気持ちに余裕がなくなり、立たせようとする方に座って頂くよう伝えるなど、ご利用者の意思を優先できず、押し付け気味の介護になる時がある。ご利用者の行動把握に努めると共に、今後も声かけに留意する予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導の際も 今が いいですか 30分後に しましょうか〜と選んでいただいています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など 決めています が 朝寝坊の方は それなりの時間にとっていただいています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みにあわせて洋服を えらんでいます。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回は レクリエーションとして 全員参加の 食事作りをしています。 その他でも 無理のない範囲での準備や あとかたづけを いっしょに行っています。	料理の得意な職員が調理を担当しており、会議で提案頂いた粕屋町の生産物(ブロッコリー等)を食材に使っている。本部から届く食材を活用すると共に、ご利用者と買出しに出かけており、月数回は代表が土の付いた新鮮な野菜や新鮮な魚を差し入れして下さっている。ご利用者も下ごしらえなどを手伝って下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量 水分摂取量ともに 確認記録し、不足の場合は 補給(趣向を大事に)しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 個別に ケアしています。 週1回は 歯科衛生士よりケアを受けています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導を 中心にしています。 夜間は 入眠が深い場合はトイレ誘導からベットにてのパット交換を行っています。	職員同士で排泄に関する情報共有もできている。定期的なトイレ誘導で 尿とりパットの枚数が減った方もおられる。「雨が降り出した」と言う言葉が尿意を意味している方もおられ、タイミングを見計らって誘導するようにしている。トイレ誘導時の声かけは他の方に気付かれないように配慮し、可能な限り、同姓介助もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜を たくさん食事に 使用しています。(ごぼう・レンコン・芋類) 体操やストレッチと 運動もとりいれています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	長期間の欠入浴を 避けるために 週間予定表は作成しています。 希望入浴も随時に対応しています。	入浴回数や時間等、ご本人の希望を大切にしている。入浴を拒まれる方は理由を把握し、声かけの工夫を行ったり、訪問歯科医の方との会話で気分が良かった後にお誘いする等の対応をしている。羞恥心の配慮のため、安心されるまではタオルを外さない等の対応も行い、入浴時には会話も楽しませている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜だから 寝なければならない~との強制はありません。 テレビを観たかったり 喉が渇いたりとその都度 対応しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	顕著な症状に関しては 全スタッフが 勉強しています。 また 疑問に思うことは 資料確認を行うようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をいっしょにできる範囲は支援する。ケアボックスや身体を動かすレクリエーションは皆さん参加されます。個別の趣味も支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方または時間を要する外出は火曜日に予定しています。近隣への散歩は随時に行っています。	両ユニット合同での外出も多く、季節に応じて与丁公園にバラを見に行かれたり、大宰府天満宮の梅も楽しまれた。ホーム周辺のお散歩以外にも、ご利用者の希望でオンモール(買い物・食事・美容室)に出かけたり、嗜好品を買いに行かれています。火曜日は外出デイにしているが、気候が良くなればカラオケや散歩等を増やしていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が管理保管は難しいのでごいっしょに買い物～の運びとなっています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で生の声を聞いたり話したり、手紙を出したり受けたりと喜ぶ顔を見れる支援をしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものを飾るようにしています。廊下 トイレが自然光が入りにくく暗いことで不安を感じさせないように配慮しています。	リビングの壁には季節に応じた飾りがされており、手芸が得意な職員を中心に手作りの飾り物も増えている。広々としたリビングでは、どこからでもテレビが見えるようにソファの場所を変更し、ご利用者がゆったりとくつろげるスペースが確保されている。温湿度の管理、音の大きさ、光の調整等への配慮も行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前は全員が集まれる空間になっています。ひとりの作業は食卓で行う傾向にあります。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境整備は本人様とご家族との話し合いにて行っています。	お部屋の入り口には職員手作りの小さな着物が下げられており「綺麗かね」と言って下さっている。自宅で使い慣れたテーブルや椅子、ソファ等を持参頂いており、お位牌などを置かれている方もおられる。心身状況に合わせてペットや机の配置を工夫する等、居心地よく過ごせる工夫が行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の環境整備は 本人様とご家族との話し合いにて行っています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名: グループホーム 長寿の里 なかばる

作成日: 平成 24 年 3 月 28 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	長寿の里なかばる祭りの実現に向けた取り組みを行っていききたい。	長寿の里なかばる夏祭り等を開催したい。	設備は整っているのので、本社と話し合い実現に向けて活きたい。	4 ヶ月
2	4	運営推進会議後にアンケートを配布したり、金曜日以外にも開催したい。	アンケートの作成・配布。金曜日以外の会議開催。	行政、ご家族様に会議に参加出来る曜日を聞き皆様が参加出来る曜日に開催する。	2 ヶ月
3	8	制度に関する知識を職員が学べる機会を作って活きたい。	研修に参加し、勉強会を行う。	制度に関する研修に職員に参加してもらおう。	4 ヶ月
4	10	ご家族様面会時は極力職員も一緒に同席していききたい。安全な名札の着用を検討したい。	面会時は職員も同席する。名札の着用。	会議時に安全に職員の名前が解る名札を検討。面会時は時間を見て職員が自ら話しに行く。	2 ヶ月
5	37	地域の防災訓練参加、地域に参加して頂きたい。	地域の防災訓練に参加し、又当施設に地域の方を呼ぶ。	運営推進会議や地域の集まり等で防災の話しをし、地域の防災参加、当施設の防災に参加して頂ける様声掛けを行う。	6 ヶ月

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	38	職員間の連携を強化、入居者様の行動範囲を把握に努め、職員に気持ちの余裕が出来るよう努めたい。	入居者様の意思が優先出来る環境作りをする。	会議等で業務工程や改善点を話し合い、職員の気持ちに余裕がなくなる時を検討し改善するよう努める。	2 ヶ月
7					ヶ月
8					ヶ月
9					ヶ月
10					ヶ月
11					ヶ月